

『沖縄の怒りをわがものに！玉城デニー知事とともに考える 10.24 平和集会』  
八王子地本OB会は玉城知事に連帯の檄布を手渡しました

去る10月24日、JR総連・9条連共催の「沖縄の怒りを我がものに！玉城デニー知事とともに考える平和集会」が330名を超える参加のもと目黒区中小企業センターホールで開催されました。地本OB会も多くの会員が参加し、玉城知事の沖縄の現状と今後についての講演を受けました。参加者は沖縄の現実を自分のこととしてとらえ、自らの実践を強化していくことを再確認しました。そしてこの間、八王子地本・OB会でともに取り組んできた檄布を玉城知事に地本OB会参加者全員が登壇して、連帯の意思を込めて贈呈しました。



第25回地本OB会総会以降の国内外の動きは、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻やイスラエルによるガザへの無差別攻撃、ヒズボラを支援するイランとイスラエルの紛争など世界各地で争いが起きています。そして核の脅威などをちらつかせながら、一触即発、第三次世界大戦をも想起させ人類滅亡の危機を感じざるをえない状況になってきています。

国内においては、10月に行われた衆院選は「政治とカネ」の問題に加えて、物価高やその対策の不満などを背景に、自民党・公明党の与党は過半数を獲得できず、少数与党として不安な政権を担うことになりました。半面、金融緩和の継続や、税や社会保険料の負担軽減を訴えた野党が議席を伸ばしました。私たちOB会は八王子地本とともに3名の推薦候補者の当選を勝ち取ってきました。

こうした情勢の中で、私たちを取り巻く社会環境は、物価高騰による日々の生活が困窮な状態に追い込まれています。2025年問題と言われている労働力不足、医療人材不足、社会保障費の増大（主に医療、介護、年金等が限界）など高齢者にとって、一段と暮らしにくい状況になっています。私たちはこのような状況を嘆いているだけではなく、私たちができることを地域社会の中で取り組んでいかなければなりません。各エリアでは、この間、三鷹事件碑巡りやグランドゴルフ、地区OB会の発展的解散などさまざま取り組んできました。地本OB会も高齢化が進んでいますが、ドイツのサムエル・ウルマンの「青春の詩」にあるように、「年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる」の言葉をいま一度思い起こしながら、健康に留意して力強く生きていこうではありませんか。